



園芸 【ブロッコリーを作ろう】

効能

ブロッコリーはビタミンCやβカロテンを豊富に含み、免疫力の向上や風邪予防に効果が期待できる栄養価の高い野菜です。また、食物繊維も多く整腸作用にも優れています。7～8月は夏まき栽培の播種時期ですので、是非ご家庭でも作ってみてください。

苗の準備

ブロッコリーは苗からの栽培がおすすめです。園芸店などで購入する際は、葉の色が濃く厚みがあり、本葉が4～5枚程度で、茎が太く節間が詰まっているものを選ぶと育てやすいでしょう。自家育苗の場合は、播種後21日～28日程度で本葉4～5枚が定植適期となります。8月は高温となるため、遮光や風通しを確保し、徒長防止に努めます。水やりは午前中を中心におこない、夜間に多湿にならないように注意してください。

畑の準備、定植

定植は8月中旬～9月中旬が目安になります。

ハウス欠乏症が発生しやすいので、堆肥とマルチサポート（40g/m²）による土作りをおこないます。植え付けの2週間前にセルカ（100g/m²）と1週間前に園芸化成S500（160g/m²）を入れよく耕しておきます。定植当日にうね幅140cm、株間33cm、条間40cmの2条千鳥植えにすると管理、収穫が効率良くおこなえます。

定植後の栽培管理

ブロッコリーは初期生育が重要になります。活着までは乾燥に注意し、適度に灌水をおこないます。また、株元に土寄せをおこない、倒伏防止と根張り促進させます。生育に応じて追肥をし、花蕾の肥大を促進させます。

追肥の方法は、1回目の追肥に関しては定植後2週間頃に条間に園芸化成S500（40g/m²）を散布してください。2回目の追肥は、小さな花蕾ができた頃に園芸化成S500（40g/m²）による追肥をうね肩におこないます。2回目の追肥の際、うねの肩土を株元へ土寄せしておきます。追肥に関しては、雨が降る前日に行うと効果的です。

病害虫の防除について

ブロッコリーは特に生育初期に害虫の被害を受けやすく、防除の遅れがその後の生育や収量に大きく影響します。害虫の被害を軽減するために、育苗期後半から定植前日までに殺虫剤の灌注は必ずおこなうようにしましょう。定植直後から防虫ネットを使用し、物理的に侵入を防ぐことも効果的です。病害虫に関する農薬の相談については、最寄りの営農生活センターへご相談ください。

着果管理～収穫

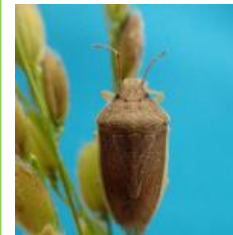
花蕾が12cm程度になったら収穫をおこないます。基本は朝収穫となります。収穫を早朝に行うことによって、収穫後に花が咲きにくくなります。収穫が遅れると品質が低下するため、適期収穫を心がけましょう。主枝を収穫した後も、側枝（わき芽）が伸びてくるため、継続して収穫が可能です。

JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674

2026. 8月号

水 稲

【出穂前後の病害虫防除について】



イネカメムシ

水稻栽培も後半を迎え、仕上げの時期になりました。近年、不稔米を発生させるイネカメムシの被害（特に早生品種）が増加しております。被害が懸念される圃場については、計画的な防除を心がけましょう。

水管理

出穂期以降の水管理は、水が不足しないように注意しましょう。出穂期以降の水不足は籾の稔実を悪くします。しかし、水をため過ぎても、根に十分な酸素を送ることが出来ず、根の活力を維持できなくなり、品質低下のおそれがあります。

出穂後の水管理は、足跡に水が無くなったなら入水する「間断かん水」を行い、「飽水状態」で管理します。

落水は出穂完了後30～35日ごろを目安に行い、乾燥が続く場合は走り水をします。早期落水は枯れ熟れ状態を招き、粒張りの悪化から未熟粒の発生や胴割れ粒の原因となるので注意しましょう。

【基幹防除剤】いもち病・カメムシ類・ウンカ類の基幹防除は必ず行います。出穂前防除として、ダブルカットバリダトレボン粉剤3DLまたはフジワラップ粒剤を散布してください。



【粉剤防除】ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL

10aあたり散布量／3～4Kg：使用時期／穂揃期まで

主な適用病害虫／いもち病・紋枯病・もみ枯細菌病・内穎褐変病・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・カメムシ類・コブノメイガ

※風の強い日や日中を避け、風の弱い夕方に散布を行ってください。



【粒剤防除】

フジワラップ粒剤

10aあたり散布量／4Kg：使用時期／収穫30日前まで：使用方法／湛水状態

主な適用病害虫／いもち病・稲こうじ病・ウンカ類・ニカメイチュウ・カメムシ類・登熟歩合向上

※飛散しにくく、根から成分を吸収し効果を発揮する粒剤タイプの薬剤です。



【イネカメムシ対策】【豆つぶ剤防除】

スタークル豆粒

10aあたり散布量／250g：使用時期／出穂3日前ごろ（収穫7日前まで）

使用方法／湛水状態

主な適用病害虫／ツマグロヨコバイ・ウンカ類・カメムシ類

※無人ヘリ防除を2回ご注文されている方は、原則、粉剤・粒剤の散布は必要ありません。ただし、イネカメムシが多発した場合は、速やかに防除を行いましょう。

【イネカメムシに注意しましょう！】

近年全国的に発生しているイネカメムシですが、去年は兵庫県下ほぼ全域で発生が確認されました。

イネカメムシによる被害として最も気をつけなければいけないのが、出穂直後の稲を吸汁加害することで不稔米が発生します。イネカメムシが多発した際は大幅な減収や斑点米の要因となりますので、防除を徹底しましょう！

問 い 合 わ せ 先

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905